

平成28年度 学校経営報告

平成28年度の取組と自己評価						
	柱	教育活動の目標取組と自己評価	重点目標への取組と自己評価	数値目標等の達成度合い		次年度以降の課題と対応策
				28年度実績	27年度実績	
学 習 指 導	補習講習拡大・読書活動の推進・家庭学習の習慣化	・基礎学力の定着の補習、学力向上の講習等	・大学・看護学校等進学希望者への講習や進級に努力の必要な者への補習を、放課後、長期休業、土曜等に行う。	夏期講習31講座実施 基礎学力が身についた生徒は、全体で70%.以上	夏期講習35講座 1年の計算テストの補習4回を化学、数学教員の協働で実施 基礎学力が身についた生徒は、全体で70%. 1日30分以上の家庭学習は、全体の27%（考査期間中は全体で80%）漢検合格者32名、英検合格者97名、数検合格者11名	計35講座以上を確保し教科会を中心に学年等とも連携を深め実態に応じた講座を計画作成し、早期に生徒への周知を行う。教科の補習・講習は継続して行う。 ・各種検定の組織的取組みにより受検者数の一層の向上、家庭学習の課題の内容、提出の方法の改善を図る。
		・家庭学習の習慣の継続化、定着化	・各種検定試験の資格を奨励し、講習と家庭学習の連携を図り、受検者が、増加した。	1日30分以上の家庭学習は、全体の27%（考査期間中は全体で80%）漢検合格者32名、英検合格者97名、数検合格者11名	1日30分以上の家庭学習は、全体の26%。（考査期間中は全体で86%）漢検合格者47名、英検合格者10名、数検合格者6名	・学年や科会を中心に検討し、H R中心として全ての教科での味見読書、ピブリオバトル等読書活動の推進を行い、月2冊以上読む生徒を全体の25%以上にする。
	授業時間確保	・読解力を向上させる読書活動の推進。	・図書室の活用しやすい工夫、ピブリオバトル、国語授業での「味見読書」、課題作文、ベストリーダーの表彰等に取り組み、図書室の使用頻度は高まった。	・月2冊以上読む生徒は、全体の23%以上	・月2冊以上読む生徒は、全体の18%以上	
		行事の内容の充実を図り、かつ授業時間数を確保した。	・行事の質を落とさず、精選してゆく。 ・生徒に授業規律を守らせ、おおむねチャイム着席できるようになった。	チャイムが鳴ったら着席する習慣を100%維持できてきた	チャイムが鳴ったら着席する習慣を100%維持できてきた。	授業時間を増やすこと チャイムが鳴ったら着席する習慣は、継続して取り組む。
	授業改善	・指導内容、指導方法の計画的な工夫・改善を行い、授業技術を向上させる。	・教員が授業を相互に見せあい、授業見学報告書を管理職に提出。まとめを各担当当事者ごとに提示。 ・若手教員等の研究授業を実施し、研究協議等の内容を授業改善につなげた。	報告書提出 各学期100%	報告書提出 各学期100%	・授業者ごとに課題となるテーマを全員提出させ、授業見学の視点を明確化する工夫をしてゆく。
		・研究授業で授業力を高め合い、授業公開で保護者・地域の意見を授業改善に役立てた。	・授業観察における「授業の観点」を明確化し授業改善の資料として提供した。	授業満足度72% 分かり易い72%	授業満足度66% 分かり易い71%	・次年度は、授業満足度75%、わかり安さ75%を目指す。 ・I C T機器を活用した授業85%以上
		・生徒による授業評価を年2回行い、授業改善を図った。	・生徒による授業評価を分析し、また、生徒の課題を共有し、進路実現、進級・卒業に向けた指導法を研修した。	教材研究、指導方法の工夫がある80%。	教材研究、指導方法の工夫がある78%。	・教材研究、指導方法の工夫85%を目指す。
		・思考力・判断力・表現力等言語活動を向上させる授業スタイルの工夫・改善を行う。	・思考力・判断力・表現力等言語活動の育成の為にアクティブ・ラーニング的手法を用いた授業を導入するなどの工夫・改善がみられた。	言語活動を導入した授業90%以上 校内研修を実施し、職員全体で共通理解が図られた。	言語活動を導入した授業90%以上 校内研修を実施し、職員全体で共通理解が図られた。	・アクティブ・ラーニング型の授業スタイルの工夫・改善を研修し、進路指導とも連携した言語活動の向上を目指す。

	及 総 合 学 習 奉 仕	・生徒に社会に貢献する意義を、道徳や奉仕体験、キャリア教育体験をとおして理解させた。	・防災については、地域との役割を明確化し、生徒の自主的な防災活動を活用しながら、リーダーシップを発揮させ、防災の実践的な体験の工夫を図った。 ・道徳と関連させてアクティブラーニング的手法で自己理解、他者理解、学ぶことの意義等について考えさせ発表する機会を作った。	「達成感や思いやり、存在意義を感じた」生徒は全体の77% ・新教科「人間と社会」の実践は学校生活につながっている」76%	「高齢者や障がいのある人を進んで助けている」生徒は全体の51% ・新教科「人間関係を考える手」がかりになった」85%	・防災での実践的な体験をする。 社会貢献を通して「思いやりや達成感」を80%以上にする。 ・新教科「人間と社会」の実践は学校生活につながっている」80%
		規則正しい生活習慣、規範意識育成の為に、各種の集会、HＲ、行事などで、集団生活のルールやマナー等を、教職員全員で積極的に指導を行った。	ホームルーム活動、学年集会、全校集会、学校行事などをおし、集団生活におけるルールやマナーを積極的に指導した。指導に当たっては、全教員で取組んだ。 自転車通学の危険個所に生徒部が、立ち番し事故防止など改善に努めた。 小中合同のあいさつ運動に取り組む。「教員は十分指導している」という生徒は全体の83%であった。	規律の理解88% 自転車マナー良好59% 遅刻指導の徹底90%. 時と場所に合った身だしなみ指導90% 年3回実施	規律の理解85% 自転車マナー良好57% 遅刻指導の徹底90%. 時と場所に合った身だしなみ指導86% 年3回実施	規律の理解90% 自転車マナー良好60% 遅刻者指導を徹底する90%以上。 時と場所に合った身だしなみ指導90% 小中合同のあいさつ運動に取り組む。年3回
		生活指導	美化委員会を指導し、環境教育の一環として美化週間等に取り組んだ。 地域貢献プロジェクトを立ち上げ、部活動を中心とした自主的ボランティア活動による地域貢献活動に努めた	教室、トイレ、廊下、部室、校庭、学校外周等の清掃・美化につとめた。 生徒会と部活のボランティアの有志で校門前公道の清掃活動を実施 「清掃活動・美化活動に協力している」生徒が全体の48%	美化委員による清掃活動（年3回）。 生徒会と部活のボランティアの有志で校門前公道の清掃活動を実施 「清掃活動・美化活動に協力している」生徒が全体の77%	美化委員会を中心に主体的に美化週間、美化活動に取り組ませ、中学校とも連携を図る等取組みの方法を工夫し「清掃活動・美化活動に協力している」生徒が全体の60%以上になることを目指す。
		規範意識の育成	・暴力・いじめ・窃盗等の問題行動には迅速・厳格に対応し、安心・安全な学校生活が送れるようにする。 ・	ロッカー施錠徹底、教員巡回、生徒部だよりで周知等により盗難が減少した。暴力・いじめ・窃盗に、毅然と対応した。 情報モラル推進校として、生徒の情報モラルの育成を図る。	「規律の大切さ、挨拶、頭髪、携帯について指導は十分」という生徒は全体の88%. ・学校は「いじめ」防止に取り組んでいる」72% ・情報モラルを意識している生徒82%	「規律の大切さ、挨拶、頭髪、携帯について指導は十分」という生徒は全体の86%. ・学校は「いじめ」防止に取り組んでいる」71% ・情報モラルを意識している生徒85%
	特別活動・部活動	・学年や徒会を支援し、望ましい特別活動（対面式・新入生歓迎会・体育祭・文化祭等）を行う。 ・日本の伝統文化を理解し日本の良さを発信できる生徒を育成する。 ・オリンピック・パラリンピック教育における国際理解の推進	学校行事をおし、ルールやマナー、帰属意識を育てた。 土曜日開催の体育祭は、保護者・地域の方等1300名以上が来場された。 ・伝統文化に関連した生徒向け講演会の実施。芸術鑑賞教室、芸能体験活動を実施し、伝統文化への理解を深めた、 ・世界の国と地域の文化の特徴等の調査研究を実施。 ・外国人留学生を先生として異文化理解の授業の実施。	体育祭に積極的に参加84% 文化祭に積極的に参加86% 「体育祭は有意義だった」90%(保護者) 文化祭は有意義だった87%(保護者) 伝統文化への理解が深まった80% 異文化理解が深まった60%	体育祭で得たもの計196% ※自信、忍耐、努力、信頼、達成感の計文化祭で得たもの185% 「体育祭は有意義だった」96%(保護者) 「文化祭は有意義だった」95%(保護者)	体育祭に積極的参加85% 文化祭に積極的参加87% 「体育祭は有意義」96%(保護者) 「文化祭は有意義」91% (保護者) 伝統文化への理解が深まった85% 異文化理解が深まった65%

	部活動	部活動を通して、ルールやマナーを学び、自律的な活動が出来るようにする。	生徒部を中心として、外部指導員の状況把握し体罰指導が起こらないように努めた。 1年生は全員部活加入とし、担任・顧問が加入を促進した。	加入率 1年97% 全校加入率 76% ※28年12月時点 体罰事故 0	加入率 1年80% 全校加入率 70% ※27年12月時点 体罰事故 0	1年加入率100% 全校加入率 80%(最終) ※1年は全員加入 体罰事故 0 地域、中学校等との交流試合等の工夫
健康づくり	健康の保持増進	担任、生徒部、養護教諭等が中心となり、生徒の心身の健康の保持増進に取り組んだ。	保健室、保健総務部、担任、生徒部等が連携して、生徒の健康の保持増進に取り組んだ。熱中症予防講習会を保健委員を中心に実施した。 学校保健委員会も開催した。	教員系学校保健委員会開催 熱中予防講習会 事故発生時対応の理解を深めた。	教員系学校保健委員会開催 熱中予防講習会 事故発生時対応訓練の実施	熱中症予防講習会、事故発生時対応訓練、学校保健委員会を継続して実施
	教育相談		学校保健支援事業を活用し、スクールカウンセラーと保健室との連携を強化し、心に悩みのある生徒の相談活動を行った。	専門医派遣年3回 発達障害の対応方法等の研修を開催	専門医派遣年3回 発達障害の対応方法の検討会を開催	専門医派遣年3回 カウンセラーによる生徒の相談体制の構築 特別支援教育の校内研修の開催
	体力づくり	体力づくりの一環として、体育祭、部活動等を充実させた。	体力テストの実施の方法を工夫・改善し全国平均値への向上に努める。	5月に体力テスト、オリンピック重点校として体幹トレーニングを3回実施。	5月に体力テスト、オリンピック推進校として体幹トレーニングを3回実施。	体力テストへの取組の改善の継続。オリンピック教育として体幹トレーニングの実施を継続。
進路指導	面談	面接指導を充実し、進学意欲を育て、生徒の第1志望を実現させた。	生徒の進路意識を喚起するために、面談を充実させ進路部がデーターを提供し、学年が計画的な面談・保護者会等を行い、第一志望の実現に努めた。	1年二者面談3回 2年二者面談2回 三者面談1回 3年二者面談1回 三者面談1回	1年二者面談2回 2年二者面談2回 三者面談1回 3年二者面談1回 三者面談1回	1年二者面談2回 2年二者面談2回 三者面談1回 3年二者面談2回 三者面談1回
	進学指導	3年間を見とおした進学指導を、効果的に実施した。	進路ガイダンス、個別指導、小論文指導、保護者への情報提供を継続し、生徒の進路実現につとめた。推薦、公募希望者が増加（72名）し、全教員で面接指導に取り組んだ。高大連携連絡会で収集した情報を活用した。	進路希望達成率95% 進路だよりを年間回数を上回って発行（12回） 「進路情報、アドバイスを十分提供している」82%	進路希望達成率92% 進路だよりを年間回数を上回って発行（12回） 「進路情報、アドバイスを十分提供している」85%	進路希望達成率95% 3年間の系統的進路ガイダンスの取組みを自主作成した「進路ガイダンス」に基づいて計画的に実施してゆく。 職業理解の体験授業、職業人授業・ワーク、文理・選択科目について、しごとセミナー、
	業公務員・企業就職指導	勤労観・職業観を育成し、社会の一員としての役割を自覚させた。	希望にあう進路先を紹介し、面接指導を実施。進路先を訪問させ、受験対策を行う。 新1年生のキャリア教育については、地域教育支援部生涯教育課と連携し以下の内容を実施。 文理選択進路説明会、上級学校訪問 現役大学生による進路説明会、しごとセミナー講演等 派遣セミナーは、1、2年生ともに90%以上が「参考になった」と回答	「進路指導は1年から計画的に行われている」79% 「授業、ガイダンス、補習、講習は進路実現に役立っている」78% 大学101名、短大13名、専門学校60名、看護4名、公務員1名、就職20名合格。	「進路指導は1年から計画的に行われている」80% 「授業、ガイダンス、補習、講習は進路実現に役立っている」80% 大学97名、短大23名、専門学校86名、看護15名、公務員2名、就職10名合格。	現役大学生による進路説明会、小論文指導、面接指導、進路紹介セミナー、オープンキャンパスへの参加奨励等を各学年との連携を密接に図り整備して実施してゆく。 高大連携（桜美林大学等）を活用した入試への取組みの改善
		学力向上推進プランに基づき、授業改善を行った。外部実力テストを面談に生かす工夫をした。	学力向上推進委員会を設置し、国・数・英・社・理で定期考査、課題テストを用いて学力調査を実施（2回）。本校入試の学力検査成績を分析し、授業改善等に役立てた。 分析システムについては、校内研修会を開催し、職員全体の共通理解を図った。「学力スタンダード」委員会を開催し各教科での内容の検討を行う。	学力調査問題を1,2年5教科・3年2教科で年2回、1,2年で外部の課題テスト2回（9月、1月）実力テスト等3回（4、9、1月）	学力調査問題を1,2年5教科・3年2教科で年2回、1,2年で外部の課題テスト3回（4月、9月、1月）実力テスト等4回（4、5、10、2月）	学力調査問題を1・2年5教科、3年2教科で年2回実施する。スタディサポート（1年1回）実力テストを1,2年2回、校内模試2年1回（有志）実施 学力スタンダードを作成し、本校の指標を明確化し学習活動の改善に努める。
	（地域交流等）募集・広報活動	入学選抜	推薦選抜で、集団討論・個人面接・作文を実施した。	推薦選抜の評価の観点や推薦・前期・後期の選抜方法を整理し、学校ホームページに掲載した。推薦の討論テーマは、具体的な内容に改善した。	個別相談用のマニュアルを改善し共通理解を図った。 面接の観点を一層具体化した。	12月～2月に学校説明会を実施。 討論、作文テーマの一層の改善（評価の観点からの検討）

	学校PR	ホームページ、学校案内、山高通信、学校説明会等の内容を充実した。中学校訪問は、町田市立中学校を重点的に行った。	生徒作成の学校案内を更新し配付した。 学校説明会を年10回行い、特に部活紹介や生活指導の説明を充実した。 山高体験を2日間行い、体験授業を行った。新たに夏季学校見学会を5日実施した。中学校に教室掲示依頼する。 出前授業、体験授業、中学校での説明会講師派遣等を積極的に行った。 校門前の掲示板を活用し、地域への情報発信を積極的に行った。 学校説明会には、企画室も参加してもらい、授業料等の説明を実施した。	中学生来訪者数 延1315名 中学校訪問は市内中学校各9回 HPの更新200回以上 募集対策事業16回 （中学生に対する広報活動） 在校生のアンケート調査による在籍していた塾への説明会を実施1回。	中学生来訪者数 延1500名 中学校訪問は市内中学校各4回 HPの更新（月1回）200回以上 募集対策事業46回（中学生に対する広報活動） 在校生のアンケート調査による在籍していた塾への説明会を実施1回。	中学生来訪者数 実数1500名 中学校訪問 市内中学校各4回 HPの更新の継続、掲載記事の工夫（授業等学校生活全般の広報） 校門前の掲示の活用の工夫の継続 夏季学校見学会7日 特色ある学校の取組（キャリア教育等）のPRの強化
	施設開放	施設開放の利用調整を行い、また公開講座を実施した。	テニス中級公開講座で、部員・OBも講師を務めた。 初心者のためのアーチェリー公開講座（小・中学生対象）を初めて開催した。	テニスコート開放日、テニス公開講座実施(9,10月)アーチェリー公開講座4日間（10月）	テニスコート開放30日、テニス公開講座実施(9,10月)アーチェリー公開講座4日間（10月）	テニスコート開放30日 テニス公開講座 9、10月 アーチェリー公開講座10月（小・中学生）の継続
	地域との連携	生徒会や部活が、地域行事に参加した。オリンピック・パラリンピック教育におけるアスリートとの交流	どんと焼き参加、防災訓練での相互協力、茶道部の地域交流、卓球部の小学校の運動会の支援、小学校への学習支援。アスリートやスポーツ指導者を招いて直接的な交流を図る。	「推進事業一オリパラ、文化・情報的に参加している」50%以上	「推進事業一オリパラ、文化・情報への積極的取り組み」80%	「推進事業一オリパラ、文化・情報への積極的取り組み」85%
学校経営・組織体制・経営企画室の経営	学校経営	企画調整会議、分掌、委員会により、組織的な学校運営を行った。	企画調整会議で、学校の課題を検討し、分掌間の連絡調整に当たった。主幹教諭会議で、総合的な学習等学校改善のための検討を行った。	企画調整会議 毎火曜日 主幹教諭会議 毎金曜日	企画調整会議 毎火曜日 主幹教諭会議 毎金曜日	経営指標に基づいて、分掌等を組織的な取組に改善。 企画調整会議（毎火） 主幹教諭会議（毎金）
	OJT	主幹教諭、主任教諭を中心として、組織的、継続的な人材育成を行った。	職層に応じた役割を明示し、自己点検による自己の課題の明確化を図った。 職層に応じて助言・支援する担当者を決め、組織的、継続的な人材育成を行った。	職層に応じた自己点検、指導・助言の担当者を決定。教員向けの研修3回以上・若手教員研究事業参観者各6名以上	職層に応じた自己点検、指導・助言の担当者を決定。教員向けの研修3回以上・若手教員研究事業参観者各6名以上	若手教員研究授業 参観者 各回5名 職層に応じた自己点検、指導・助言の担当者を早期に決定し、計画的な人材育成に取り組ませる。
	アンケート	学校評価アンケートの結果を、学校経営に生かした。	学校運営連絡協議会では、規範意識育成、部活動、地域活動が評価され、自転車の課題と共に、近隣スーパーでのマナーの改善が指摘された。保護者のアンケートの回収数が前年に比して増加した。	アンケート 回収率・数 保護者72%498名 地域21.3%49名 市立中学校60%12名	アンケート 回収率・数 保護者84%584名 地域23.5%47名 市立中学校65%13名	アンケート 回収率 保護者80% 地域22% 市立中学校65%
	新教育課程等	教科・特別活動のバランスに配慮しながら、大学進学等の進路を実現する為の新教育課程に取り組む。	3年の英語の授業においても習熟度別授業を行い基礎学力の定着化を図った。 「人間と社会」における1年全員のインターンシップ体験。外部機関を活用した系統的キャリア教育の充実を図る。	基礎学力が身に付いている70% 保護者66% インターンシップの成果発表会等系進路の組織的、計画的実施 78%	「人間と社会」の研究指定校として、カリキュラム、授業案を作成し都、校内研修で発表した。	基礎学力が身に付いている75% 保護者70% 2年の数学でも習熟度別授業を実施。 インターンシップの成果発表会等進路の組織的、計画的実施 80%
	読書活動	未読率を低減し、読書習慣が身につくよう指導を行った。	教員系図書委員会と司書教諭が連携して、パソコンによる貸出管理、選書、読書週間、推薦図書、図書室だよりの発行等に取組み本の貸し出し数が増加した。書評合戦に参加すると共に、校内において書評合戦の自発的取り組みが行われた。	司書(業務委託)との連携を行った。(書評合戦、デイバート、オリンピック等) 図書貸出数 4680冊	司書(業務委託)との連携を行った。(書評合戦、デイバート、オリンピック等) 図書貸出数 2300冊	授業内、授業外での図書館利用の一層の促進 書評合戦、デイバート、オリンピック推進教育等に対応した図書館の有効活用の工夫
	予算編成	限られた予算を、必要な部署に重点的に配付した。	次年度の予算編成に当たり、品目査定を行った。結果として、必要な部署に必要な予算を配付できた。	一般需用費センター利用率58% 予算執行率99%以上	一般需用費センター利用率68% 予算執行率99%以上	一般需用費学校経営支援センター利用率60%以上 予算執行率99%以上
	授業料等	学校徴収金について、適切な執行管理を行う。	学校徴収金については、経営企画室と教員とが連携し、予算書に基づき執行し、また未納者への対応も行った。	学校徴収金の未納率0%、 授業料納入対象者の未納率0%	学校徴収金の未納率0%、 授業料納入対象者の未納率0%	授業料及び就学支援金の支給に関わる適正・迅速化を継続して図る。

